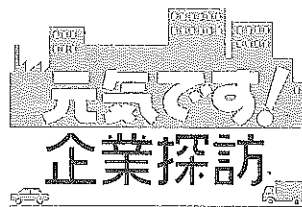


「唯一無二」の部品 開拓



光情報通信や光計測などに不可欠な光学単結晶の製造と応用で世界をリードするオキサイド（北杜市）。

国際市場の開拓に取り組み、他企業が手がけないニッチ（すきま）で高いシェアを持っている。

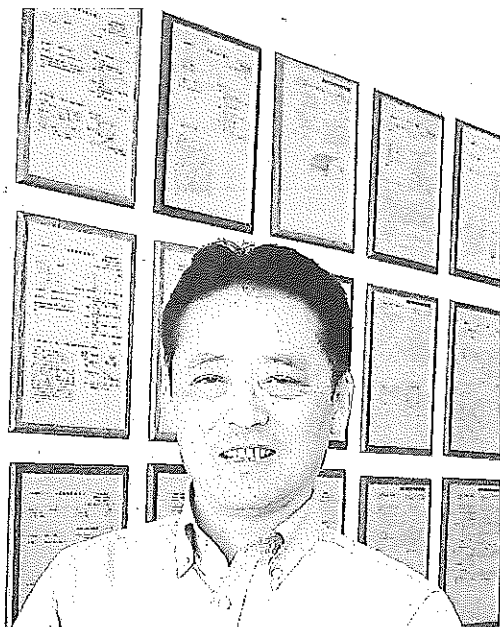
経済産業省の「グローバルニッチトップ企業100選」に3月、県内で唯一選ばれた。①世界シェアと利益の両立②独創性と自立性③代替リスクへの対処④世界シェアの持続性が評価された。

創業者の古川保典社長（54）は「収益率が高くないこと以外は、すべて当てはまります」と笑う。

素材開発は設備投資や研究費が必要のため、ほとんどが上場企業だ。オキサイドも売り上げの20%を設備費や研究費が占めるが、5～10年先を考えると不可欠な投資だという。

主力製品は「酸化物単結晶SLT（定比組成タンタル酸リチウム）」。医療検査や光通信用のレーザーなど幅広く使われ、今や世界市場を独占しているが、最初は製造時の歩留まりがわ

光学素材開発 オキサイド



特許のボードがずらりと並ぶ玄関で「これが財産」と古川保典社長。北杜市武川町のオキサイド

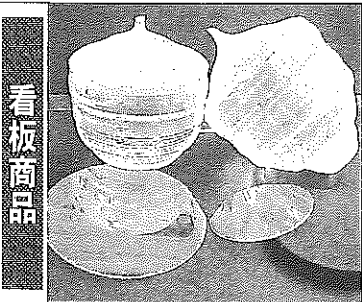
ずか10%だった。京セラや日立などの大企業が先行したが、マーケティングが小さく撤退。そこに活路を見いだし、新製造法を確立、量産化に成功した。さらに、改良を加え現在の歩留まりは98%だ。DUV（深紫外）レーザー市場でも、結晶の独占供給や新製品開発に成功している。

材料で困った多くの企業から相談があるという。その内容が「もっと安く」なら断るし、先行する会社があれば紹介する。自社が関わるのは、開発費を出しても新たに挑戦する「本気の顧客」からの相談だ。5千万円、1億円の市場でも、独占できるなら「やろう」となる。

気がつけば、取引先は300社に。毎週、新しい引き合いがあるが、その半分以上が米国やドイツ、イスラエルなど海外の会社だ。

古川社長はもともとは研究者だった。2000年に、旧科学技術庁所管の無機材質研究所から、国立研究所発のベンチャー企業第一号の社長になり、大きな話題になった。「八ヶ岳に一度キャンプにきたことがあるだけ」という北杜市小淵沢町で創業したのは、当時の親会社があったから。結果的にはこれがよかった。結晶づくりに必要な研磨技術を持つ会社や良質な水、安定した電力供給などの条件がそろい、県など行政の支援も充実していた。武川町に移ったのは05年だ。

これまで、これぞ、という技術者を他社から一本釣りしてきた。給料が減る人がほとんどだが、技術者は夢の実現が第一。なかには上場企業の役員経験者もいる。社員の15%は60歳以上で定年は事実上ない。だが、県内出身者は10人程度。「オンリーワンの会社を目指してきた。それができたのは、全て人につける」という会社。山梨の若人のチャレンジを待っている。（渡辺嘉三）



看板商品

SLT結晶 世界で唯一、オキサイドが量産化に成功した、可視から紫外領域のレーザー応用に優れた結晶。

企業プロフィール 北杜市武川町牧原／創業2000年／古川保典社長／従業員73人（パート含む）／資本金4億3千万円／売上高約12億8千万円（2014年9月期決算予想）